

## 倉吉市自治公民館施設整備資金貸付制度と 山陰合同銀行倉吉支店殿のご対応に関する件

山陰合同銀行 倉吉支店  
支店長 山根 正広 様

貴社益々ご清栄の段、お慶び申し上げます。去る5月7日と11日にお送りした下記のメールの内容に基づき、題記の貸付融資の件は貴行より添付の通り決定通知を頂きました。

ご高配深謝致します。そしてこれにより毎月小職の「館長報告」でお伝えしている通り公民館新築工事は予定通り進んでおります。

ところで、本件に関し、5月12日（水）午前12時に貴職と津村悌二 副業務役が拙宅に来られ、本件に関する謝罪を中心としたお話をされました。ご丁寧な対応ありがとうございました。

その際、今までのこの公民館新築プロジェクトに関わる経緯と私共の心情をご理解いただくために、今までの館長報告や新聞などの関係書類を10点近くお渡ししお時間のある時に読んで頂きたいと、お願いしてご了解を頂きました。

然し、残念ながらそれから2か月以上たっているのに一文一行たりとも何の感想もコメントも貴職から頂いておりません。そして、前述の津村副業務役は鳥取方面へ転勤になりました。然し津村さんは地鎮祭が行われた7月6日の事を覚えていて、地鎮祭の当日現地に出向いてそれを確認した後、拙宅に転勤の挨拶に来られました。津村さんは何か吹っ切れた様な爽やかな表情をされていて言葉も弾んでおられました。

山根支店長様にはお忙しいとは存じますが、是非このメールの返信として本件についてのご感想を賜りたくお願い申し上げます。

ありがとうございました。（電話でのコメントはご遠慮申し上げます）

倉吉市福庭自治公民館長 土井 承夫 （2021/7/21）

## 2021/5/11 メール

お早うございます。皆様にご連絡いたします。

5月7日付け弊メール（下記）にて題記の件につきご報告いたしました。その後、倉吉市殿側と山陰合同銀行倉吉支店殿側の関係者の迅速なご対応ご協力により、昨日5月10日午後4時に倉吉市地域づくり支援課の担当係長殿と主任殿が拙宅に来られ、添付の様な同銀行同支店の山根 正広 支店長名による「貸付決定通知書」（石田耕太郎倉吉市長様宛ての文章）の写しを頂きました。

私個人の感想として、この様な決済を得るには、合銀殿の支店からまず松江市の本部へ申請書（稟議書）を提出し関係部署の審査認可を得る必要があると想像致します。従って、本来それに要する日数を考えると今回の実働2日間の対応は山根支店長殿が”一身を投げうった”程の動きをされなければ実現しないのではないかと想像致します。

勿論、倉吉市役所殿側の積極的で迅速なご対応があったのは間違いありませんが、それ以上に山根支店長殿ご自身の真摯な反省と強い責任感があってこそのものであると存じます。そして不遜にも同支店長殿を叱責申し上げた私自身がその念を強くしているのも事実であります。昨日この「貸付決定通知書」を頂いた事で添付している新築の工程表にあるスケジュールに何の遅滞・不都合も生じておりません。本当にありがとうございました。（この工程表に記述している特に入札に関わる詳しい日程は業者が決まるまでは皆様ご自身だけの情報にして頂きたくお願い申し上げます。入札は色々な意味でデリケートな部分が多いというのが理由であります。何卒ご理解下さい）

「雨降って地固まる」とは日本の諺であります。今私が少し凝っている英語では「After rain comes fair weather」と言うのだそうです。洋の東西で“雨”は負のイメージなのでしょう。然し営業の仕事が多かった私自身の現役時代を振り返るとこの雨が、言い換えると「クレーム処理」が実はお客様と仲良くなれる絶好のチャンスだという事を国内でも海外でも体験させて頂きました。これは、先日売却された日立金属という会社から何度も繰り返し教えられてきた事でもありました。

今後の山陰合同銀行倉吉支店 山根正広 支店長様の益々のご活躍と倉吉市役所殿のご発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

倉吉市福庭自治公民館長 土井 承夫（どいよしお） (2021/5/11)

## 5月7日メール

皆様には益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

4月の小職の「館長報告」でお伝えした様に、3年越しで進めてきた福庭自治公民館新築プロジェクトは、1年待ったものの「コミュニティセンター助成金」1500万円の支給が決まり総額4600万円の財源が計画通り定まったと認識していました。既に今日(5月7日)は午後から解体業者の入札を予定しており助成金申請書にある通りのスケジュールで作業は進んでおります。

ところが、昨日、3番目の財源である倉吉市の「自治公民館施設整備資金貸付」助成制度(添付p.d.f資料<1>)にある限度額2000万円(15年、元金均等半年賦償還)の5回目の申請に市役所地域づくり支援課様のご指示のもと、本制度の預託金融機関である山陰合同銀行倉吉支店殿を訪問し最終手続きである「融資申込書」(添付p.d.f資料<2>)に記入してそのコピーを前述の地域づくり支援課の石田主事にお渡ししました。然し、この申込書を提出しても「最終的に融資できるかどうか分からない。場合によっては今年で館長を退任する私、土井承夫の個人資産を担保に取る事もある」と耳を疑う様なご担当者の驚愕の発言がありました。以下に同銀行との今までのやり取りの概要を述べます。

(1)今回の助成金等の手続きと御礼を兼ねて4月8日に市役所の地域づくり支援課を訪問し、同課のご指示により翌日、前述の銀行の倉吉支店を訪れて市の自治公民館助成制度に基づき2000万円の融資のお願いを行いました。

(2)その際、この3年間に資料作成した法人化・所有権移転等の関係書類や本建設計画に関わる総会・臨時総会議案書や細かい法務局提出のアップデート資料など十数件ののぼるドキュメントを提出し昨日の5回目の折衝となりました。当初より支店長さんに挨拶だけでもさせて頂きたいと申し入れているのにやっと昨日13時30分のアポイントをとり、私としては正装して時間ぴったりに訪問しましたが、その時間になっても支店長殿がどこに行ったか分からず担当者が右往左往する中でようやく20分後に同支店長殿が会議室に現れました。然し名刺交換をただけで帰ろうとされるので「お話があります」と呼び止めて「今回の融資申請は倉吉市の自治公民館助成制度にのっとって行っているもので、市や県や総務省の諮問機関である自治総合センターに71ページに及ぶ前述したドキュメントを提出して認可されたものであり、「与信管理」の意味はわかるが一般の特に中小の企業様への融資とは異なるので是非そこを理解頂きたい」と2度念押しして申し上げました。

(3)これに対する支店長様の対応は、あくまでも私の個人的な感想として「うわの空」であり10歳以上も年上の私に対しては極めて「非礼」であると強く感じました。

80～90年代のバブル崩壊やリーマンショック時に多くの銀行が「貸しはがし」や「貸し渋り」を行い社会問題ともなりました。然し、銀行マンではないけれど同じ企業に勤務していた私は企業が利潤追求を第一義にするのは当たり前であり銀行の立場も理解していたつもりでした。「銀行が全体の融資額を減らして財務状況を改善し銀行そのものの自己資本比率を高めようとする」のは良くわかります。然し、今回は詳しい提出済申請書を市と県と国で審査し合格とオーソライズされた案件であります。その状況下、前述したような本行のご対応は、この辺の事情を全く理解されないものであると思います。

(4)自治公民館は地域の振興を図る倉吉市と一体となった組織であり非営利団体です。財源のメインは住民が年に一度納める館費です。営利企業でないから行政からの各種の助成制度があるのです。説明申しあげた様に幸い福庭・清谷地区は区画整理が最後だった事もあり各種の基幹施設が集まり市内でも人口が増加している唯一の地域です。それは即ち借入金の返済財源も安定していることを意味しています。

(5)私は90年代半ばに日立金属シンガポール支社に6年間勤務していました。その時に、タイのバンコク郊外に地元企業とのジョイントベンチャーを立ち上げるプロジェクトに関わりました。その際、

旧・日本興業銀行（IBJ）シンガポール支店の与謝野取締役支店長に約20万USドル（約2100万円）の融資をお願いし同支店長の誠意ある懇切な対応を賜りました。たくさんの事も教えて頂きました。今でも感謝の念に耐えません。与謝野支店長はあの与謝野晶子のお孫さんだったと記憶しております。その印象もあってか今回の事は残念でなりません。

(6)さりとて、この2000万円の融資が崩れると今の建設計画は頓挫します。そこで次の対応を各関係者の皆様をお願い致します。

(a) 要求された資料は全てサブミットしたので山陰合同銀行倉吉支店長名で「今回の融資は融資申込書とおりの内容に従って間違いなく実行する」旨の文面を市役所と福庭自治公民館宛てに 今月中に提出頂く。

(b) それが、かなわぬ時は、預託銀行のもう一行である鳥取銀行殿にお願いする。その際は合銀殿に5回に亘って提出した関連資料は全て返却してもらう。(事務手続きを簡素化するため)

(c) それでもダメな時はこの助成制度の主体である倉吉市役所殿に市の一般会計または特別会計から2000万円を捻出頂き今回の「15年半年賦元金均等償還」にて福庭自治公民館が返済して行く。

以上、誠に勝手に不遜な事を申し上げましたが、館長である私は福庭自治公民館加入 413 世帯、1,034 名の住民に対して責任があります。もしこの計画が上記の原因で頓挫すれば2年越しで獲得した「コミュニティセンター助成金 1500 万円」も返却しなければなりません。その最悪の事態を避ける意味でも市役所のトップである石田耕太郎市長様にご出馬いただき山陰合同銀行本店(松江市)の同行代表取締役頭取の山崎 徹 様と話を付けて頂きたくお願い申し上げます。、それくらい重要な案件であると認識しております。何卒ご高配の程お願い致します。  
ありがとうございました。

令和3年5月7日 倉吉市福庭自治公民館 館長 土井 承夫(どいよしお)